

八戸市次世代育成支援行動計画 後期計画 事前質問・意見回答一覧

◆質問事項

事業番号 12：家庭相談事業（担当課：こども家庭課）

Q1： 家庭相談員は、どのような方が担当されていますか。（職種）

A1： 元小学校校長

Q2： 児童相談所で行っている相談業務と重なっている部分が多いと思うのですが、市での事業を行っている意義について教えてください。

A2： 児童相談所の相談業務は、児童に関する虐待、一時保護、施設入所など緊急性のある事案を扱っています。

それに対し市の相談室では、泣き声通報の調査など、比較的緊急度の低い児童虐待の相談を受けています。更に、子どもの養育及び躰に関する相談、適応障害、不登校、学校の担任先生の指導に関する相談など、幅広く家庭内や学校に関する様々な相談に応じております。

Q3： 相談員 1 名ということですが、年間 84 件の相談を 1 名で担当するのは負担ではないでしょうか。（増員できませんか）

A3： こどもの養育相談など大部分の相談は、来所者への助言で終了しております。また児童虐待に関する相談など訪問調査が必要なものについては、こども家庭課職員と連携・分担して対応しております。

時期的に、相談が重なり、忙しい時もありますが、現在の体制で、概ね相談業務は支障なく実施されております。

◆意見 1

事業番号 96：スクールカウンセラー活用事業

97：心の教室相談員配置事業

○内容

児童生徒に対する相談事業について、中学校はスクールカウンセラーと心の教室相談員とでほぼカバーできていると思いますが、小学校の配置が少ないように思います。

小学校への配置について、相談員の増加（あるいは巡回という形で実施校を増やす）などの検討をしていただければと思います。

○回答（教育指導課）

心の教室相談員は、その業務上、密室等において1対1で相談を受けることから、情報管理に厳格であり、かつ品行方正であるなどの資質が求められます。

ただ単に生徒が悩み等を気軽に話すことができ、ストレスを和らげるだけでは、お任せできない職種であると考えております。

したがって、公募等による募集には適さず、信頼のおける教職員OBの方にこちらからお願いしているのが現状ですが、引き受けてくださる方を見つけるのが難しい状況があります。

しかし、ご指摘のように心の教室相談員の果たす役割は非常に重要であり、学校からの配置要望が多く見込まれることから、教育指導課としても増員を希望している所です。

なお、スクールカウンセラーについては、その財源は1/3が国、残り2/3は県が支出する事業であり、増員を要望しているものの、県の状況や臨床心理士確保が難しいなどの理由で増員は見込めない状況です。

◆意見2

事業番号 190：児童虐待対策ケース会議（八戸市虐待等対策ネットワーク会議）

○内容

平成24年度開催15回で、実施状況A、達成状況a、第二次評価3つ星（100%）となっているが、虐待の相談（通告）を受けたら、漏れなく対応（処理）するのは当然の事であり、求められるのはスピード感である。

統計では、平成24年度八戸市の虐待相談対応件数は38件（要対協管理ケース数14）となっており、年間15回の開催で、どれだけ迅速に対応できているのか（相談受理後何日以内）という視点で捉えることが重要と考える。

また関係機関との連携を盛り込んでいるが、基本的には市役所内部の会議であると聞いており、構成メンバーを含め、会議のあり方そのものも検討が必要なのではないか。

○回答（こども家庭課）

貴重なご意見ありがとうございます。

市では、児童虐待の相談を受けた場合、速やかに関係課が集まり受理会議を開催し、児童の安全確認・訪問調査等を行っております。そのうち緊急・深刻なケースについては児童相談所に報告し、対応をお願いし、それ以外のケースについては、一次対応を行った後、ケース検討会議を開催し、関係機関によりケースの検討を行い、今後の方針を決めております。

現状では、市で扱うケースは、比較的緊急度、深刻度が低いケースであり、むしろ長期的見守りが必要なものがほとんどであり、学校、保育所、民生委員、児童委員等の関わりが求められるので、それぞれのケースに合わせて必要な関係機関にお集まりいただいております。